

ここで、 $q$ の単位時間当たりの増加分が $i$ なので...

$$i = \frac{\Delta q}{\Delta t} \quad (\text{電流の定義})$$

が成り立つ。

図より、それぞれの端子間の電圧の合計が $a$ に対する $d$ の電位と等しいので、

$$V = V_{ab} + V_{bc} + V_{cd}$$

が成り立つ。この方程式を満たすような $I_0$ と $\phi$ を求めれば交流電流が決定できる!!

< $V_{bc}$ を求める>コイル部分

$V_{bc}$ は、電流 $i$ を時間微分して、

$$V_{bc} = L \frac{di}{dt} = \underline{\hspace{4cm}}$$

$$= \underline{\hspace{4cm}}$$

$$= \underline{\hspace{4cm}}$$

電流の位相 $\omega t - \phi$ は、コイルにかかる電圧の位相\_\_\_\_\_に比べ、  
 $\frac{\pi}{2}$ 遅れている。

Point

コイルの電圧の振幅は...

**リアクタンス  $L\omega$  × 電流の振幅  $I_0$  になっている!!**

< $V_{ab}$ を求める>コンデンサー部分

$V_{ab}$ は、 $i$ を積分して $q$ を求めて計算すると、

$$i = \frac{dq}{dt} \text{ より、}$$

$$q = \int i dt = \underline{\hspace{4cm}}$$

$$= \underline{\hspace{4cm}}$$

よって、

$$V_{ab} = \frac{q}{C} = \underline{\hspace{4cm}}$$

$$= \underline{\hspace{4cm}}$$

電流の位相 $\omega t - \phi$ は、コンデンサーにかかる電圧の位相\_\_\_\_\_に  
比べ $\frac{\pi}{2}$ 進んでいる!!

Point

コンデンサーの電圧の振幅は...

**リアクタンス  $\frac{1}{C\omega}$  × 電流の振幅  $I_0$  になっている!!**

以上より、

$$V = V_{ab} + V_{bc} + V_{cd}$$

$$V_0 \sin \omega t = \underline{\hspace{4cm}}$$

右辺は合成公式を使って...

$$V_0 \sin \omega t = \underline{\hspace{4cm}}$$

ここで、

$$\tan \alpha = \underline{\hspace{4cm}}$$

※補足 (合成公式)

$$a \sin x + b \cos x = \sqrt{a^2 + b^2} \sin(x + \alpha)$$

$$\text{ここで、} \tan \alpha = \frac{b}{a}$$

この式が任意の時刻 $t$ で成り立つので、

$$V_0 = I_0 \sqrt{R^2 + \left(L\omega - \frac{1}{C\omega}\right)^2} \text{ より、}$$